

未来に輝く

「キラっ都SASEBO」を皆々まともとせむ

佐世保市長 朝長 則男



明けましておめでとうございませう。市民の皆さまには輝かしい初春をお迎えのことから喜び申し上げます。

昨年、我が国では、天皇陛下が即位され、平成から令和への新時代を迎えるなど、喜びの年でありましたが、台風や集中豪雨など災害の多い年でもありました。また、国際的には、米中、日韓、中東、北朝鮮問題などの影響で、経済や安全保障にも緊張感が漂い続けた年であつたように思います。

そのような中、佐世保市においては、日本遺産である佐世保鎮守府開庁・佐世保港開港130年の記念すべき年ということと、数多くの記念事業が展開されました。しかし、一方では、8月豪雨において江迎川が越水し、家屋浸水や農業被害、土木施設等の被害が生じたので、9月及び12月議会で災害対策の補正予算を認めていただき対応いたしました。

「俵ヶ浦半島開発」については、「俵ヶ浦半島公園(仮称)」の令和2年度中の供用開始に向けて整備を進めてまいります。
「名切地区再整備」の「中央公園リニューアル」については、令和4年4月の供用開始に向けて事業の進捗を図ってまいります。

「基地との共存共生」については、陸上自衛隊崎辺分屯地の開設など、自衛隊による崎辺地区の利活用に向けた整備が具体的に進む中で、地域の交通環境の抜本的な改善に資する前畑崎辺道路について早期完成を目指し、本格的に工事に着手し整備を進めていきます。
「特定複合観光施設(1R)誘致」については、全国で最大3カ所となっている区域認定を目指し、長崎県主導の下、九州・長崎1Rの実施方針策定や事業者公募・選定、区域整備計画作成などを国のスケジュールに合わせて進めていきます。

「企業立地・新工業団地整備」については、昨年10月から分譲を開始している「佐世保相浦工業団地」への誘致活動を積極的に進め、早期分譲を目指します。
「英語が話せる街佐世保」については、引き続き、市民との協働の下、英語や外国文化に触れる機会を広げていくとともに、新年度からスタートする小学校英語教育に対応できるように、教員の研修に教育委員会と共に力を注いでいきます。

「世界で最も美しい湾クラブ加盟の九十九

さて、本年は「東京2020オリンピック・パラリンピック」がいよいよ開催されます。本市では、5月9日(土)に聖火リレーが行われる予定になっています。また、ハンドボール競技では、スペインチームが出場権を得た場合、本市が事前キャンプ地になれるように長崎県と共に働き掛けを行っています。

そして、本家のオリンピック競技とは異なりますが、全世界約80カ国から選抜された高校生約300名が集い、生物学の難問を解いて競う「第31回国際生物学オリンピック2020長崎大会」が7月3日(金)～11日(土)に、長崎国際大学とアルカスSASEBOを中心に開催されます。日本では平成21年のつくば大会以来2回目の開催となります。

また、全国の港湾関係者など官民合わせて約千名が集う「日本港湾協会定時総会」が、5月27日(水)、28日(木)の両日、アルカスSASEBOなどで開催されます。

本市の重要施策である8つのリーディングプロジェクトにおいて、

「クルーズ船入港体制整備」については、国際クルーズ船の寄港拠点として、「浦頭クルーズ岸壁」が新年度早々に供用開始となります。

島・世界文化遺産・日本遺産の活用については、本市の魅力メディアやSNSなどを通じて全国・全世界に発信してまいります。

この他にも、西九州自動車道の松浦～江迎～佐々間の早期完成、佐々～大塔間の4車線化をはじめ、東彼杵道路の計画段階評価着手、石木ダム建設、国土強靱化地域計画策定などについて、国・県と協力し、また、国・県の計画と調和を図りながら積極的に進めてまいります。

4月からスタートする「第7次佐世保市総合計画」については、インフラの整備はもとより、超高齢社会や少子社会、そして、急速に変化する社会に対応すべく、AI等の先端技術を原動力とした「ソサエティ5.0(※1)」などの動きも踏まえて推進していきたいと思えます。本市が築き上げてきた自然、歴史、文化等を生かしながら、市民全体で佐世保の価値を高め、シビックプライドを持って市内外に力強く発信し、未来に輝く「キラっ都SASEBO」を、皆々まと共に作り上げていきますので、引き続き、ご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

本年が市民の皆さまにとって素晴らしい一年となりますようお祈り申し上げます、新年のごあいさつといたします。

※1 ①狩猟社会②農耕社会③工業社会④情報社会に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱されたもの。

